

## 0 新型コロナウイルス関連情報

サージカルマスクや消毒液は、薬局でなくても外国人向けスーパーで入手可能です。感染が疑われる際は、指定の公立医療機関にて PCR 検査を受検し、感染確定後は同様に指定の公立医療機関にて入院することになります。いずれの指定施設も邦人が入院するのは医療水準、衛生、サービスの観点から難しいと考えられます。

## Covid19 陰性証明発行可能な医療機関

国立公衆衛生研究所（INSP）が英仏表記の証明書を発給していますが、厚生労働省が求めている情報がすべて記載されているわけではない（検体採取部位、時間、検査方法等の記載がない）ため、所定のフォーマットへの記載が求められます。医師に所定フォーマットをお渡しください。所定フォーマットが完全に記入されない場合、日本入国後、検疫所長の指定する場所で待機が求められます。

## 1 衛生・医療事情一般

### (1) 概要

国土面積は、24万5,857平方キロメートルで日本の本州とほぼ同じ、人口は約1,340万人（2019年 UNFPA）です。1958年にフランスより独立しました。公用語はフランス語で、国民の9割がイスラム教徒です。

（参考）ギニア共和国基礎データ（外務省ホームページ内）

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ginea/data.html>

### (2) 気候

「西アフリカの給水塔」と呼ばれるほど水資源の豊富な高温多湿地域で、平均最高気温は年間を通して30度～34度、年間雨量は4,000ミリを超えます。雨季（5月中旬～10月下旬）には激しく降り続く雨で至る所が冠水し、家の壁、靴や服にもカビが生えます。一方、乾季（11月上旬～5月上旬）には雨が全く降らず、強い風とともにサハラ砂漠からの砂が舞い（ハルマタン）、空が黄色にかすみませす。

### (3) 地誌

沿岸（海岸）ギニア・中部ギニア・高地ギニア・森林ギニアの4地方に分割されます。セネガル・ギニアビサウ・マリ・コートジボワール・リベリア・シエラレオネの6隣国に囲まれ、歴史・社会・政治・経済・文化等に様々な影響を受けてきました。

### (4) 衛生状態

水道は都市の一部にはありますが、水質は劣悪です。市場や路地の屋台で販売されてい

る飲食物は清潔とは言えず、下痢や嘔吐の原因となることが頻繁です。ホテルのレストランでも食中毒を起こすことがあります。公衆トイレはなく、レストランなどのトイレも衛生状態はあまりよくありません。

#### (5) 医療水準と病院受診時のアドバイス

日本人が受診可能な衛生度の私立クリニックは、コナクリ市内に数カ所確認できていますが、治療水準については日本と同じレベルは望めません。また高額の治療費がかかります。いずれもフランス語のみで英語が通じません。重症疾患への対応は期待できず、重症例は基本的にパリや日本等への緊急搬送が必要となりますので、海外旅行傷害保険は、3,000 万以上の治療・緊急移送費をカバーする増額加入が必須です。

大使館には医務官 1 名が常駐しており、医療情報の提供が可能ですので体調の悪いときにはご相談ください。

## 2 かかり易い病気・怪我

### (1) マラリア

ハマダラカ（蚊）によって媒介され、吸血の際にマラリア原虫が体内に侵入した後、1～3 週間前後の潜伏期を経て発熱、悪寒、頭痛、関節痛などの症状にて発症します。マラリア原虫は 4 種類ありますが、当地の感染は、ほとんどが熱帯熱マラリアで対処が遅れると重篤な合併症を引き起こすことがあるため、早期診断・治療が重要です。1 年間に人口の十分の一以上の 130 万人がマラリアを発症しています。国内全域で一年を通じて発症していますが、特に雨期に流行します。ハマダラカは夕方から明け方にかけて活発に活動しますので、夜間に人が集まる場所へ外出する際には防蚊対策を十分にしてください。長袖・長ズボン・靴下と白っぽい衣服の着用、虫除け剤の使用を心がけ、屋内ではエアコンや蚊帳の使用、防虫スプレーの噴霧など蚊に刺されないようにしてください。

突然の発熱と体の痛み、頭痛、倦怠感などを自覚した場合は、マラリアを念頭に速やかに医療機関を受診してください。診断・治療の遅れが重症化につながります。治療は即効性のある抗マラリア内服薬（Coartem®や Riamet®）が使用されます。発熱による脱水を補う水分摂取と休養も重要です。重症化した場合は、病院で入院治療となります。また、治療への反応が悪い場合や、頭・肺・腎臓へ影響がある場合には先進国へ搬送となります。

コナクリ市内での感染は、迅速な検査が可能で、治療薬が入手できるために、予防薬の内服は必須ではありませんが、地方都市滞在の場合は、適切な検査、治療が行えない場合がありますので、予防内服を検討して下さい。

### (2) 感染性胃腸炎（下痢・嘔吐・発熱）

不衛生な食事・水を摂取することにより発生します。潜伏期間は様々です。年間を通して多い細菌性下痢・腸チフス、雨季にはコレラ・赤痢も発生します。コレラは米のとぎ汁のような水様下痢が特徴です。腸チフスは便秘と高熱が特徴です。渡航前に腸チフスの予防接種を推奨します。よく加熱調理されたものを食べ、生野菜は避けてください。感染性

胃腸炎に罹った場合、脱水を避けるため十分な水分を摂取してください。吐き気で水分が摂取できない場合や頻回の下痢の場合、血便または発熱のある場合は、点滴や抗生剤服用が必要となりますので、医療機関を受診してください。

### (3) 狂犬病

狂犬病は狂犬病ウイルスに感染した動物に咬まれることにより感染し、発症したら 100% 死亡します。ギニアは野良犬が多く、狂犬病のリスクは高い国です。渡航前に狂犬病の予防接種を推奨します。乾季に多いコウモリも感染している可能性があるため、むやみに犬や野生動物に触れないでください。野犬等に噛まれた場合、軽症であっても必ず医療機関を受診してください。

### (4) 髄膜炎菌性髄膜炎

当地はいわゆる髄膜炎ベルト地帯（髄膜炎感染多発地域 26 カ国）に当たり、主に乾季のハルマツタンの時期に髄膜炎菌が飛沫感染（咳やくしゃみなど）により流行します。1～14 日の潜伏期の後に頭痛、発熱、頸部痛で発症し、治療が遅れると命に関わります。治療には抗生物質投与が必要です。予防接種は効果がありますので推奨します。

### (5) 麻疹

近年ギニアでは麻疹の患者が多く見られます。これはギニアの予防接種体制が不完全なことが原因と考えられます。日本で麻疹の予防接種を済ませていない方は接種を推奨します。また、風疹、流行性耳下腺炎の患者数について正確なデータがありません。これらの予防接種は行われていないため、感染の広がる恐れがあります。麻疹との混合ワクチンもありますので接種を推奨します。

### (6) A 型肝炎

不衛生な水、氷、野菜や果物、魚介類等から感染するウイルス性の肝炎です。上下水道の未整備なギニアでは感染する可能性があります。急性肝炎として、発熱、食欲不振、倦怠感、吐き気や嘔吐などの症状が出ます。予防接種は有効です。

### (7) B 型肝炎

輸血や手術などの医療行為、性交渉等から感染します。不特定の人との性交渉は避け、コンドームを正しく使用して下さい。医療器具が汚染されている可能性もあります。病気の際は安心できる医療機関を受診して下さい。渡航前の予防接種を推奨します。

### (8) 性感染症

世界保健機関（WHO）の最新データ（2016 年統計）によれば 15～49 歳における HIV 陽性率は 1.5%ですが、性産業従事者では 14%と高くなっております。また、その他の性感染症も多いため注意が必要です。

### (9) 交通事故

狭い道に車・オートバイ・リヤカー・人があふれ、路面の状態が悪い上に、運転マナーが悪いため交通事故が多発しています。自動車やオートバイの運転は自分では行わない方がいいでしょう。また、バイクタクシーは大変危険なので利用しないでください。

#### (10) 皮膚病

雨期は湿度が高く、様々な皮膚炎に罹りやすくなります。洗濯物を屋外に干すと虫卵がついて皮膚病を起こすこともあります。室内干しを推奨します。クッションやソファ、ベッドのマットレスからダニに刺されることもあります。かゆみ止めクリームがあると便利です。首都周辺の海・川は非常に不潔ですし、地方では寄生虫感染の危険性がありますので、川や池には入らないでください。また、11月初旬頃より、通称やけど虫（アオバアリガタハネカクシ）が大量に発生します。虫をたたいて潰し、その体液が皮膚につくと皮膚炎になります。虫を潰さないように注意しましょう。仮に体液がついた場合は流水でしっかり洗い流し、病院を受診してください。

#### (11) エボラウイルス病（エボラ出血熱）

ギニアにおいて 2014 年 3 月に森林ギニア地方でエボラウイルス病が確認されてから、WHO が終息宣言を発表した 2015 年 12 月 29 日までの 1 回目の流行では、累計で 3,804 人が感染し、うち 2,536 人が死亡しました。

2016 年 3 月 17 日に森林地方にて再度、患者の発生が報告されました。この 2 回目の流行では、10 名が感染、うち 8 名が死亡しました。2016 年 6 月 1 日に WHO により 2 回目の終息宣言が発表されました。

エボラウイルス病は、致死率が極めて高い危険な感染症です。ウイルスを持っているコウモリや野生動物への接触、患者や遺体の血液、分泌物、排泄物などから感染します。潜伏期間（2～21 日間）のあと発熱や頭痛などの症状に始まり、嘔吐、下痢、悪化すると全身に出血傾向が出て死に至ります。現在は感染者はおりませんが、野生動物の肉（bush meat やジビエと称されるもの）を食さない、疑わしい患者には接触しない、疑わしい病死者の葬儀への参加は見合わせる、など感染予防の注意を覚えておいてください。

#### (12) 破傷風

土壌に生息する破傷風菌が深い外傷創を通して感染し、菌が産出する毒素が筋痙攣を起こします。初期は開口障害や顔面筋痙攣による瘻笑を認めますが、痙攣発作期には腱反射が亢進し、呼吸困難を経て死亡することがあります。事前の予防接種を推奨します。

### 3 健康上心がける事

(1) 日差しが強いので帽子・日傘・日焼け止めクリーム等を使ってください。長袖の着用も有用です。

(2) 熱中症予防のため十分に水分を摂ってください。

(3) 水道水は飲用には適しません。飲み水はミネラル・ウオーター（COYAH®等）の利用をしてください。レストランでの飲料に入っている氷にも注意してください。

(4) 食中毒予防のため外食時は清潔なレストランでよく加熱調理されたものを食べてください。生野菜は避けてください。バイキング形式は、調理後に時間が経つと細菌の増殖が進みますので、注意をして下さい。

- (5) 蚊帳や防虫剤を使用し夕刻以降は長袖・長ズボンを着用して蚊を防いでください。
- (6) 宿泊先は信頼の置ける清潔なホテルを選んでください。
- (7) 首都周辺の海・川は非常に不潔です。地方でも寄生虫感染の危険がありますので川へは入らないでください。高級ホテルのプールで泳いでも胃腸炎に感染することもありますのでご注意ください。

#### 4 予防接種

(1) 赴任者に必要な予防接種

入国のために必須：黄熱病

強く推奨：A 型肝炎、B 型肝炎、破傷風、腸チフス、髄膜炎菌、狂犬病、コレラ、ポリオ、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎混合ワクチン、ジフテリア、水痘

(2) 現地の小児定期予防接種一覧

現地の小児定期予防接種一覧					
	出生時	45 日	10 週	14 週	9 ヶ月
BCG	○				
ポリオ(経口)	○	○	○	○	
ポリオ不活性化				○	
5 種混合(*)		○	○	○	
麻疹					○
流行性耳下腺炎	実施されていない				
風疹	実施されていない				
黄熱病					○

(\*)5 種混合：DPT(ジフテリア・百日咳・破傷風)+B 型肝炎+Hib

上記の表は「国家プログラム (無料)」ですが、私立クリニックではロタウイルス、肺炎球菌、その他も自費で注文取り寄せ可能です。

(3) 小児が現地校に入学・入園する際に必要な予防接種・接種証明書

入学時と転入時に carnet rouge (生後から 5 歳までに接種したすべての予防接種記録カード) の提出が求められます。

## 5 病気になった場合（医療機関、薬局）

いずれの医療機関、薬局もフランス語のみで英語は通じません。

### ◎ コナクリ

#### (1) Clinique Ambroise Paré (クリニック アンブローズ パレ)

所在地：Quartier Camayenne, Corniche Nord, Commune du Dixinn, Conakry

電話：660 00 00 22 または 664 02 02 02

概要：私立総合病院で邦人の利用実績もあります。一般的疾患、軽度外傷の治療、一部手術も可能です。マラリア治療も可能です。レントゲン、血液検査、心電図、超音波、CT、MRI などの検査が可能です。救急対応も可能で救急車要請ができます。医師 15 名が在籍、入院病床は 50 床です。当国で一番設備が整っている病院であり、基本的には同院の受診を推奨します。保険会社数社のキャッシュレスサービス、緊急移送にも対応しています。過去の例：3 日間の入院、各種検査と点滴治療で、約 40 万円。

診療日・時間：緊急時は 24 時間対応

#### (2) Centre Medical Thermos (サントル メディカル テルモス)

所在地：Quartier Manque Pas, Commune de Kaloum

電話：664 63 15 59 または 621 08 91 24

概要：市街地中心部にある私立クリニックで 6 床の入院施設があります。小規模ですが、出張、往診等の融通を利かせたサービスが期待できます。一般的疾患に対応しています。マラリア治療も可能です。血液検査、レントゲン、超音波検査が可能です。保険会社のキャッシュレスサービスは支払金額（入院で高額になった際）によって対応となります。

診療日・時間：緊急時 24 時間対応。一般的な診療も電話予約をしてください。

#### (3) Clinique Pasteur (クリニック パストゥール)

所在地：Quartier Manque Pas, Commune de Kaloum

電話：621 35 01 01

概要：市街地中心部にある私立クリニックで一般的疾患の治療ができます。マラリア治療も可能です。入院施設があり一部手術も可能です。血液検査、レントゲン、胃カメラ、超音波検査機器があります。保険会社のキャッシュレスサービスに対応しています。

診療日・時間：緊急時は 24 時間対応ですが、それ以外は科によって診療日が異なります。

電話で確認してください。

#### (4) First Aid Action Guinee (ファースト エイド アクション ギネー)

所在地：Quartier Minere, Commune de Dixnn

電話：621 79 78 78

概要：新設の私立総合病院です。一般的疾患、軽度外傷の治療、一部の手術が可能です。マラリア治療も可能です。レントゲン、血液検査、心電図、超音波、胃カメラなどの検査機器があります。CTは導入準備中。24時間の救急対応が可能です、救急車要請および往診サービスがあります。保険会社のキャッシュレスサービスは導入予定です。

(5) Le cabinet dentiste de Dr.Mehsein (ル キャビネ デンティスト ドクター メーセン)

所在地：Avenue de la Republique Immeuble ABD photo

電話：625 59 33 11

概要：新設の歯科クリニックで英語が通じます。院長は、フランスで10年以上の診療歴があり、他国大使館員も利用しています。ただ、院長がフランスに出張していることもあり電話確認が必要です。

## 薬局

ギニアの場合、保管方法に問題がある場合や、偽薬が販売されている場合がありますのでご注意ください。下記の薬局は、比較的信用できますので参考にしてください。

(1) Pharmacie Manquepas (ファーマシー マンケパ)

所在地：530 Avenyu de la Republique Commune de Karoum

電話：657 35 55 55 または 628 35 55 55

(2) Pharmacie Manize (ファーマシー マニーゼ)

所在地：En face du stade du 28 Septembre, Commune de Dixnn

電話：626 87 60 74

○ インゼレコレ (2018年12月：最終確認)

(1) Centre Médical l'Espérance de NZao(クリニック ザオ)

所在地：インゼレコレ市からローラ (Lola) 市に向かう道路の左側の大きな建物。インゼレコレから8km。

電話：(医師直通) 621 50 25 25 または 664 80 96 01 または 620 45 33 29

(事務) 621 50 50 70 または 622 37 07 31

(外科病棟) 628 00 32 93

概要：私立の総合病院(ミッション病院)でインゼレコレ在住外国人が利用しています。外科・内科・小児科・婦人科・歯科。小手術も可能です。レントゲン装置、血液検査

機器、心電図検査機器あり。入院設備もあります。

診療日・時間：電話で予約をしてください。

(2) **Qlinique Médicale Huguette** (クリニック メディカル ウゲッテ)

所在地：Ossud, N'Zelekore ンゼレコレ市オスード地区、ICRC 事務所近く

電話：622 22 04 00、664 30 17 78、または 622 20 26 75

概要：私立のクリニックでンゼレコレ在住外国人が利用しています。外科・内科・小児科・婦人科があります。

診療日・時間：外来は月～土曜日、救急はいつでも受付可能。

(3) **Direction regionale de la sante de N'zerekore /Direction prefectorale de la sante de N'zerekore**(ンゼレコレ州/県病院)

所在地：ンゼレコレ市中心部、Grande Marche 道路を挟んだ対面

電話：621 80 95 89、664 34 49 82、もしくは 654 12 12 12

概要：ンゼレコレ州の基幹病院で、病床数は 175 床、医師は 200 名勤務し、州最大規模を誇ります。レントゲン、血液検査、超音波などの検査機器があり、一般的疾患、軽度外傷の治療、24 時間の救急対応が可能です。ただ、在住外国人の利用が少ないことを考えると邦人が利用することは衛生面から難しいと考えられます。

## 6 現地語一口メモ (公用語はフランス語)

「世界の医療事情」冒頭ページの一口メモ (フランス語) を参照願います。

医師 médecin メドサン

飲み薬 médicament メディカマン

頭痛 mal à la tête マラ ラ テェト

胸痛 mal au coeur マロ クール

腹痛 mal au ventre マロ ヴォントル

下痢 la diarrhée ラ ディアレ

発熱 la fièvre ラ フィエヴル

吐きけ des nausées デ ノゼ

怪我 blessure ブレシュール

蚊に刺された piqué par un moustique ピッケ パラン ムスティック

犬にかまれた Un chien m' a mordu. アン シアン マ モオルデュ

交通事故 un accident de voiture アン アクシダン ド ヴォアテュル

具合が悪いです Je me sens mal. ジュ ム サン マル

病院へ連れて行ってください Emmenez-moi a l' hôpital, s' il vous plaît. アムネモア ア ロピタル シル ヴ プレ



(了)